

建築ITコミュニケーションデザイン論 第9回：「情報化社会」という神話
本江正茂
2006.7.11

○ 授業評価アンケート

- 情報技術が社会を大きく変える！！ ホント？
技術と社会の関係は単純ではない。
30年前から、モデルチェンジしながら、ずっと同じようなことが言われている。
cf. 佐藤1996, 31-36

- 情報化社会論の二つの系列 矛盾？
「ポスト近代社会」 vs 「ハイパー産業社会」
脱工業化 モノより情報

第三の波 もっと便利になる
近代社会の終焉 個人の時代になる

矛盾したまま、両方が存続していられるのはなぜか？
情報化社会の実体はあるのか？→ 存在しない。永遠に未来社会である。
なんでもない=なんでもである！

● ポスト近代社会論の大家：マクルーハン、バル、トフラー

マーシャル・マクルーハン

『グーテンベルグの銀河系-活字人間の形成』原著1962

『メディア論-人間の拡張の諸相』原著1964

ホットなメディア：高精細で非参加的：ラジオ，活字，写真，映画，講演

クールなメディア：低精細で参加的：電話，話し言葉，漫画，テレビ，セミナー

あらゆる技術は人間の感覚能力や運動能力の拡張。e.g.車輪=脚の拡張

メディア技術の変化による時代区分

話し言葉の時代 local and synchronous, intimate

活版印刷の時代 視覚の独立。黙読する活字人間=共同体からの切断=個人主義

電気メディアの時代 主にテレビ。感覚と感覚の相互作用の回復。

global villageへ。

ダニエル・バル

『脱工業社会の到来-社会予測の一つの試み』ダイヤモンド社、1975（原著1973）

中心的産業部門による時代区分

前工業社会 農業、常識と経験、資源、伝統主義

工業社会 工業、経験と実験、エネルギー、経済成長主義

脱工業社会 サービス業 抽象的理論、情報、知識中心主義

「脱工業社会」への変化の5つの次元

経済部門 財貨生産部門からサービス部門へ

職業分布 専門職、技術職階層が優位

社会の基軸原理 技術革新と政策決定のための理論的知識

技術の成長 社会的に計画管理し、将来の方向付けのための技術管理・評価

意思決定 知的技術を用いたシステム分析に依拠

アルビン・トフラー

『第三の波』中公文庫、1982（原著1980）

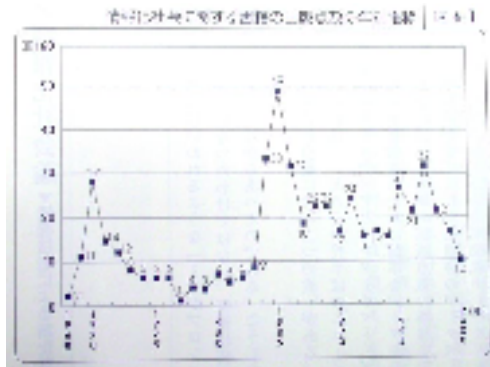
1. 農業革命 一万年前
2. 産業革命 19世紀
3. 情報革命 1955-65@USA

ホワイトカラーがブルーカラーを上回る。

prosumer=producer + consumer

中央集権的国家、マスメディア、マス市場の終焉

● 日本社会における「情報化社会論」の時期区分



情報化社会に関する書籍の出版点数の年別推移 [古川2001, 210]

1. 言説主導の「情報化」 1970年代
未来予測ブーム
マクルーハンとベル
農業／工業／情報（梅棹忠夫）
典型的技術決定論かつ経済中心主義かつ文明論的
モノばなれ、コンピュータよりテレビ
※現代的な「情報化」の諸概念はこのころすでに発生していたが知られていなかった。
e.g. ダウンサイジング、ネットワーク、マルチメディア、インタラクティブ etc.
2. システム中心の「情報化」と諸問題の顕在化 1980年代
「ニューメディア」ブーム。
中央官庁主導。
技術中心，ハード中心。自己目的化。
e.g. キャプテンによる半端な予約システム
ネットワーク的・分散的思考はない。
3. コミュニケーション中心の「情報化」 1990年代
マルチメディアとインターネットのブーム
CMCネットワークの現実的普及。
パソコン通信，インターネット，iモード
全世界に情報を発信する個人=prosumer

- イージーな技術決定論に陥ってはならない。
技術が社会を「情報化」するのではない。
技術は社会・文化によって選択されており、本質的には社会・文化に決定力がある。
情報化社会論の多くは「技術予測の名を借りた未来社会への願望にほかならない。」
本当の問題は、社会の変化が「技術の必然として語られている点にある。」
技術決定論は、社会の選択責任を隠ぺいし、責任回避の構造を生み出してしまふ。
e.g. こどもにケータイをあたえるな！, ゲーム脳

× 情報・メディア技術 → 情報化社会

○ 情報・メディア技術
↑↓ → 情報ネットワーク社会
社会・文化

- テクノロジーと社会の仕組みの「アナロジー」の誘惑
「モデル」をモデルにしている。ウロボロス。tautology。

e.g. 「ネットワーク」概念の二重化。

もともとのニュートラルな意味：人や物のつながり。

価値づけられた意味：「人々の結びつきを革新する概念」

「官僚制的で硬直した組織の中の情報の流れや意思決定機構を
柔軟なものに置き換える」

技術的ネットワーク：CMC (Computer Mediated Communication) ネットワーク

社会的ネットワーク：それを利用することで織りなされる個人間のネットワーク

【参考文献】

- 吉田純『インターネット空間の社会学：情報ネットワーク社会と公共圏』世界思想社，2000
 マーク・ポスター『情報様式論』室井尚＋吉岡洋訳，岩波書店，1991
 佐藤俊樹『ノイマンの夢・近代の欲望』講談社選書メチエ，1996
 マーシャル・マクルーハン『ゲーテンベルグの銀河系－活字人間の形成』みすず書房、1986（原著 1962）
 マーシャル・マクルーハン『メディア論－人間の拡張の諸相』みすず書房、1987（原著1964）
 テレンス・ゴードン『マクルーハン』宮澤淳一訳，ちくま学芸文庫，2001
 ダニエル・ベル『脱工業社会の到来－社会予測の一つの試み』ダイヤモンド社、1975（原著1973）
 アルビン・トフラー『第三の波』中公文庫、1982（原著1980）
 古川一郎＋電通デジタルライフスタイル研究会編『デジタルライフ革命』東洋経済新報社、2001
 公文俊平『情報社会学序説』NTT出版，2004